

言葉には力がある、その力をつけて、伝えたい

世田谷区・高次脳機能障害ピア相談員 廣井加代子

脳梗塞がもとで高次脳機能障害をもつ身となり、一時期、ほぼ言葉を失っていました。

頭の中には「行先のみつからない」「言葉」が湖となり、時々刺激によってだけ顔を出してくれるという状態でした。

嘆きつつも、言葉がある事で、どれだけ気持ちが伝わるか？

失って本当に心の底から思いました。

そう言った経験をした私ですが、今日の授業を受けて、改めて考えて、伝えたいことがあります。

それは、伝えたいと思うことから言葉にするまでの人間の作業は、とてつもなく脳を使う作業だったこと、

そして、そのことでうまくいかないと、苦しんだり、困ったりしていることです。

見た目では、ただ、ちょっと記憶悪そう、通信機器やIT機器の扱いが苦手そうと思われているかもしれませんが。問題はそういった記憶に関して少し言葉に影響が出る場合が結構あります。

その場合は行動を含めて情報を得て、駆使してコミュニケーションをします。

本当の事を言うとそれがゆえに「言葉」を投げたしそうになりました。

言葉を失いかけた病気の人々は、言葉で誤解されて傷つついています。なので、お互いに行動を見るようにしています。

ただ今回のゆき先生の話聞いて、少し気持ちが変わりました。

言葉には力がある事、それゆえに力のある言葉を使えるためには、それ相応の努力が必要だと考えるようになりました。さらに、その力をつけて、見えている、聞こえている、「言葉」が真実とは限らないこと(状況を加味した上で)そのことも多くの人に伝えたいです。